



Enterprise Architect 13.0/13.5 feature guide

by SparxSystems Japan

Enterprise Architect 13.0/13.5 機能ガイド

(2017/05/30 最終更新)



このドキュメントでは、Enterprise Architect 13.0/13.5 で追加・改善された機能についてご紹介します。青字の文字は操作方法を示しています。バージョン 13.5 での追加内容は、「バージョン 13.5」と明示してあります。記載のない内容はバージョン 13.0 での追加項目です。なお、利用できるエディションが限られる機能もあります。ご注意ください。

バージョン 13.5 は、新製品「Pro クラウドサーバ」に関連する機能追加や内部動作変更への対応が中心となります。Pro クラウドサーバにつきましては下記ページをご覧ください。

<http://www.sparxsystems.jp/products/other/ProCloudServer.htm>

バージョン 13.5 での使用許諾契約の内容の変更について

バージョン 13.5 において、Enterprise Architect (以下 EA と省略します)英語版の使用許諾契約の内容が変更になる予定です。それに合わせて、日本語版の使用許諾契約についても変更する予定です。

現時点での変更予定内容は以下の通りです。

- ✓ スタンダードライセンスは 1 ライセンスにつき、特定の 1 名のみ利用に限られます。
 - 研修などでの利用を想定した、スタンダードライセンスをマシンにインストールし不特定多数の人が利用する形態は禁止となります。同様の形態で利用する場合には、フローティングライセンスの導入が必要となります。
 - スタンダードライセンスを仮想環境などにインストールし、リモートデスクトップなどを通して間接的に利用する方法は、その環境が技術的に特定の 1 名のみが利用可能な状況でない限り、禁止となります。
- ✓ EA の制約を回避するようなアドイン・ツールやアプリケーション類の作成が明示的に禁止となります。具体的な禁止例は次の通りです。
 - 購入したライセンス数より多くの人が EA のデータを参照・編集可能とするようなアドイン・ツールやアプリケーション類
(この内容は今までも認めておりませんでした。使用許諾上に明示されます。)
 - EA で作成したデータを直接参照・編集し、EA で作成したデータを EA のライセンスを保持せずに利用可能とするツールやアプリケーション類
(EA の API を利用するかアドインとして実装するなど、EA のライセンスを持っていない人がその機能を利用できない状況であれば問題ありません。)
 - デスクトップ版でソースコードの読み込み・生成や複数人での同時利用ができるようにするなど、特定のエディションでのみ利用できる機能をそれよりも下位のエディションのライセンスで利用可能とする機能を持つアドイン・ツールやアプリケーション類

最終的な変更内容は、バージョン 13.5 の正式リリース(2017 年夏を予定)の時点で確定となります。(変更内容の比較のため、新旧対応表を用意する予定です。)

上記内容が過去のバージョンに遡って適用となることはありません。

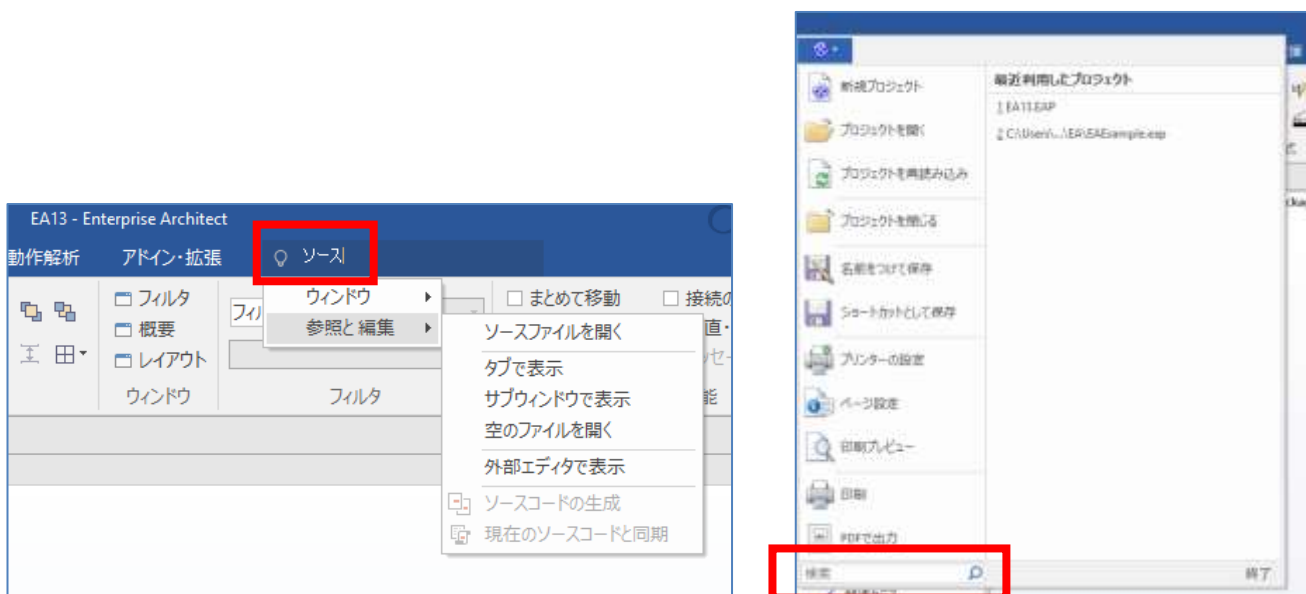
リボンの採用と Office2016 スタイルの追加

バージョン 13.0 では、今までのメインメニューに代わり Office で採用されているリボン形式のメニューが表示されるようになりました。今までのメニュー構成を大幅に見直し、目的や状況に応じたリボンのグループを提供します。



また、表示のスタイルとして、Office2016 スタイルを追加しました。リボンを利用する場合に親和性の高いスタイルです。このスタイルの場合にはリボンのタブの右端に「コマンドの検索」欄が表示され、必要とする機能をリボン内から簡単に検索することができます。

(Office2016 以外のスタイルの場合は、左端のメニューをクリックすると表示される画面の最下部に検索欄があり、機能の検索ができます。)

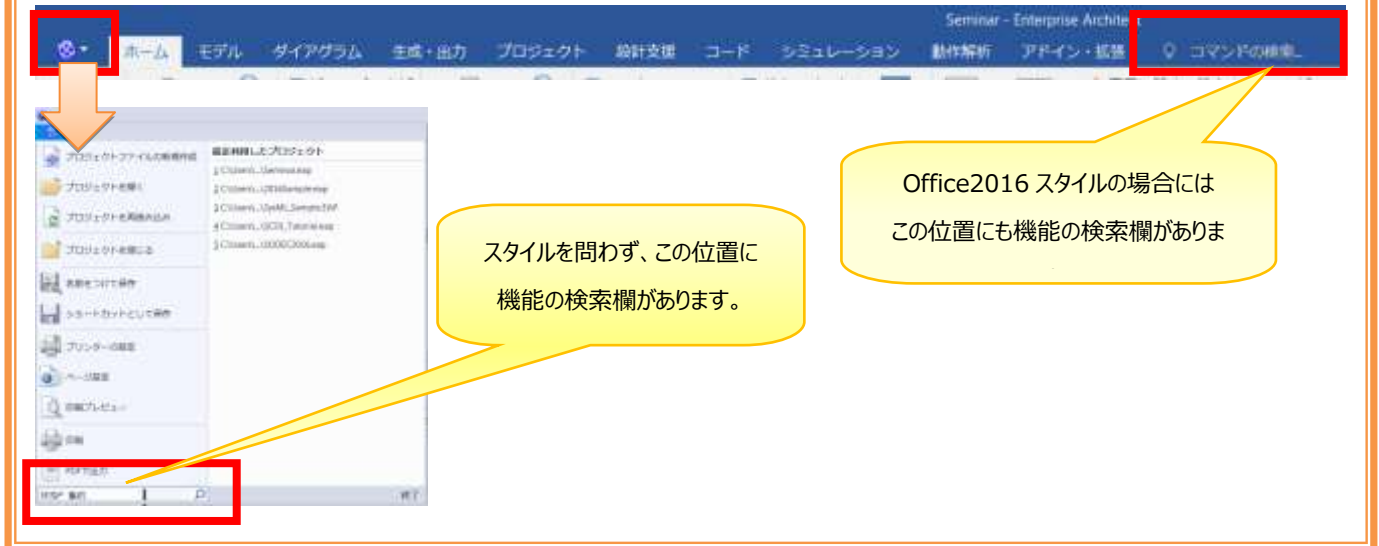


Enterprise Architect を新規にインストールする場合には、この Office2016 スタイルが利用されます。スタイルは自由に変更することが可能です。

(「ホーム」リボン内の「画面構成」パネルにある「表示に関する設定」)

バージョン 12.1 までの Enterprise Architect をご利用のお客様へのヒント

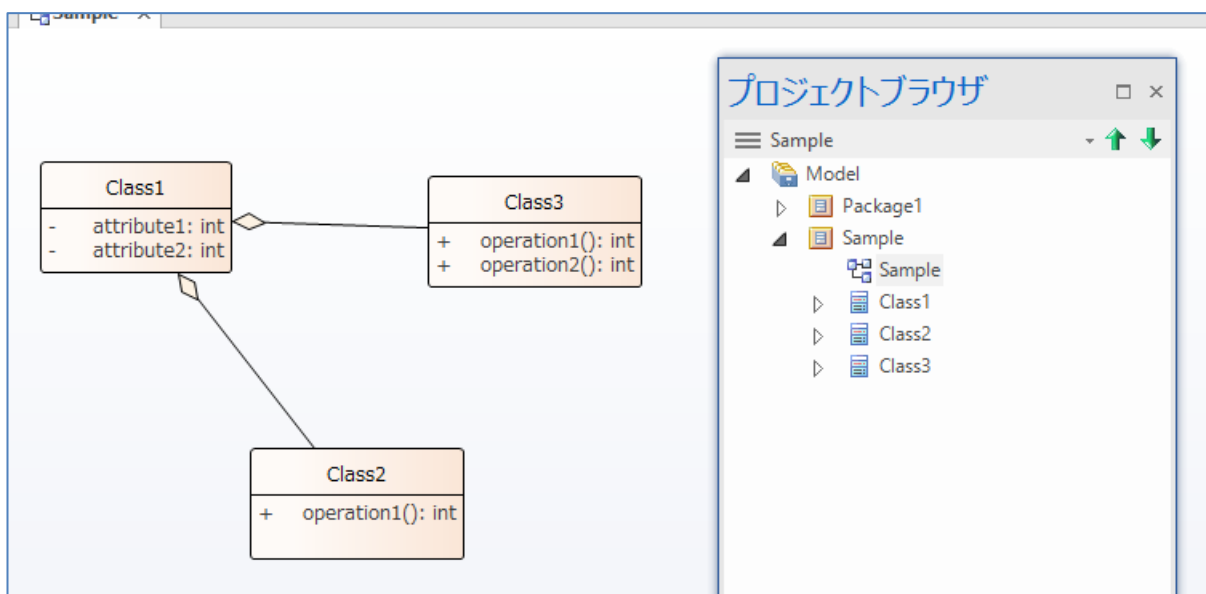
バージョン 12.1 までのメニュー形式から、バージョン 13.0 ではリボンに変更しました。今まで利用していた機能がどこにあるのか、慣れるまではわかりづらいかもしれません。このような場合には、検索機能が便利です。文字列を入力して機能を検索できます。



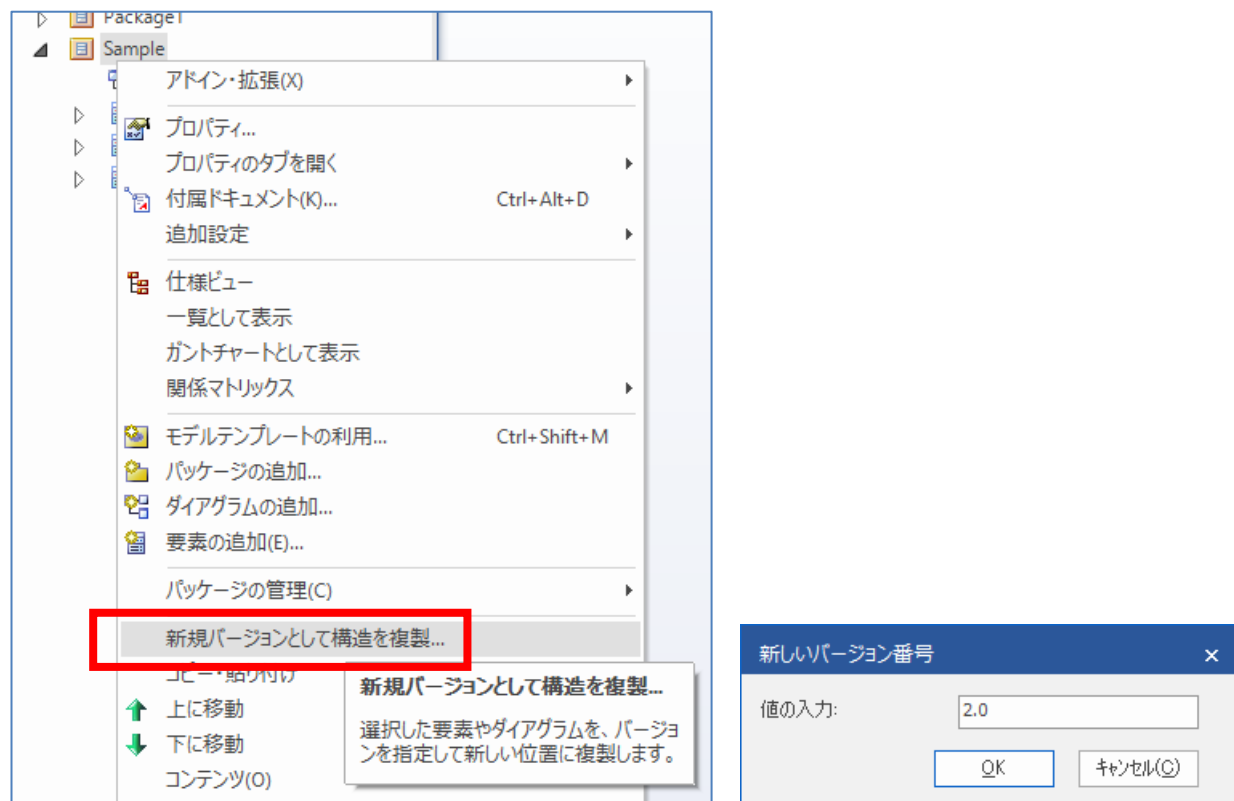
派生開発などに便利な機能の搭載

バージョン 13.0 では、作成したモデルを派生させて新しいバージョンの設計を進める場合や、現状(As-Is)のモデルから理想(To-Be)のモデルを作成する場合などに効率よく進めることのできる機能を搭載しました。この機能については、具体的な例で流れを紹介します。

例として、現状(バージョン 1)のモデルが以下のように定義されているとします。この内容から、バージョン 2 の内容を派生開発する状況であると仮定します。



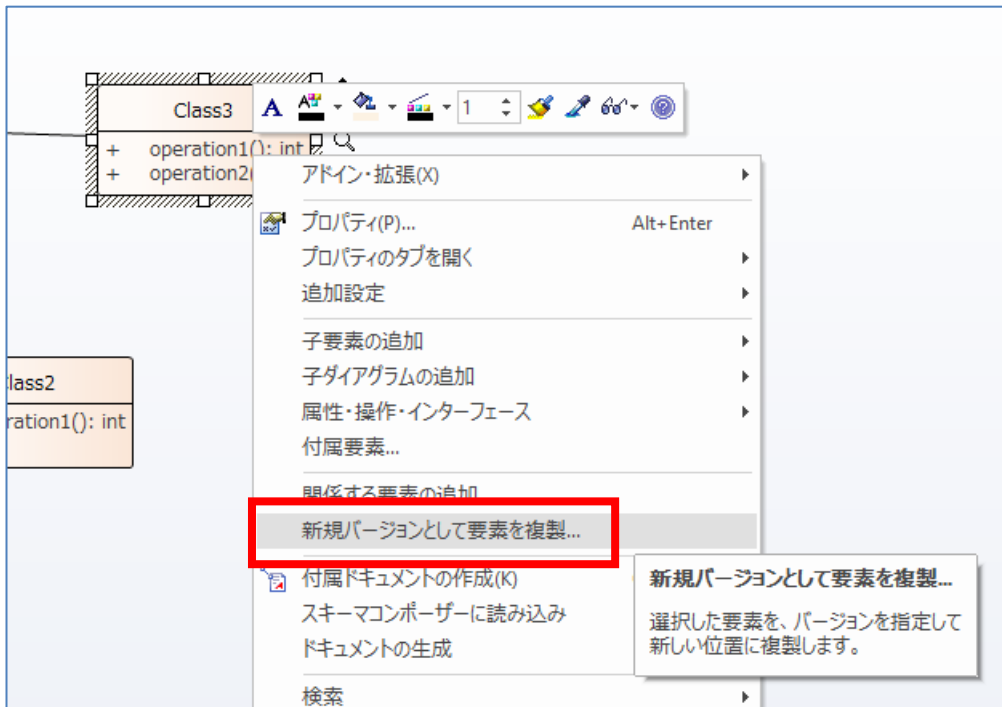
まず、対象のモデルが含まれているパッケージをプロジェクトブラウザで右クリックし「新規バージョンとして構造を複製」を実行します。バージョンの入力画面が表示されますので、新しいバージョン番号を入力します。



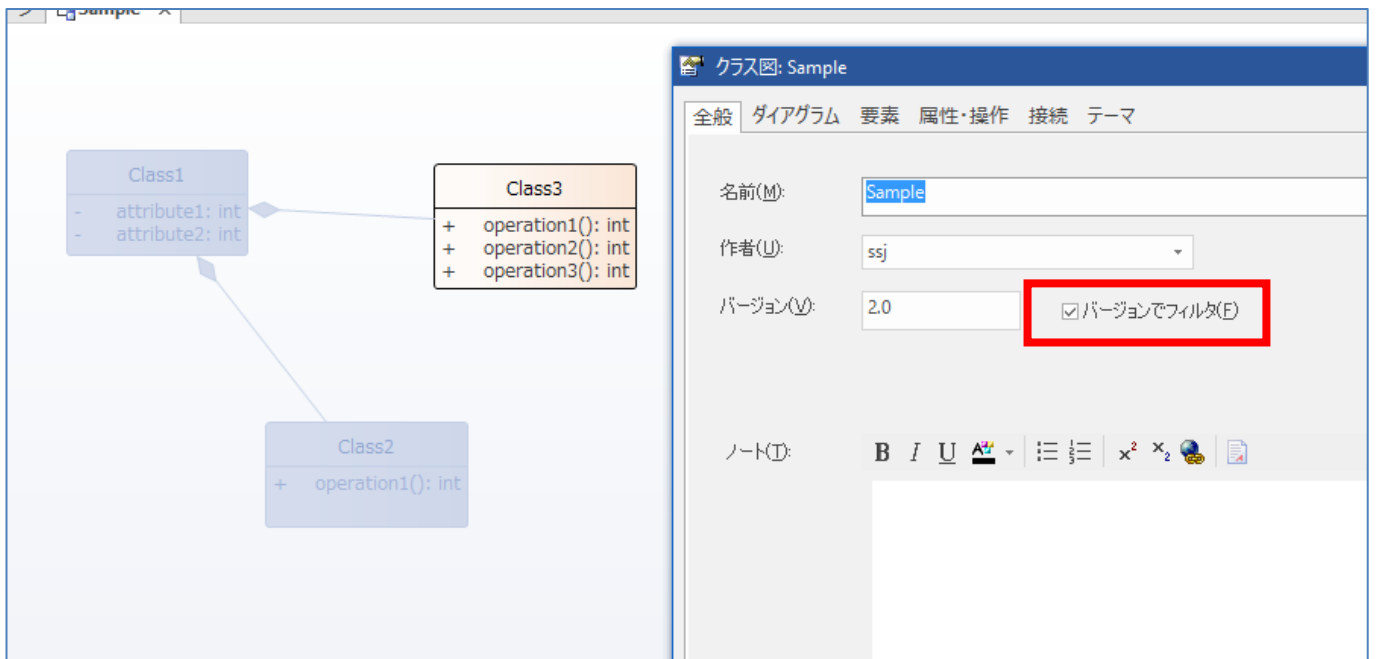
この機能は、指定したパッケージとダイアグラムのみを複製し、パッケージ内の要素については元のバージョン(今回の例ではバージョン 1)の要素がそのままダイアグラムに配置されます。

(ただし、シーケンス図のライフラインやオブジェクト要素など、内部的にインスタンスとして扱われる種類の要素は、元のバージョンへのリンクではなく新バージョンの要素として複製されます。)

ダイアグラム内の要素は、前のバージョンのものがそのまま配置されていますので、新しいバージョンで変更する場合には、対象の要素を右クリックして「新規バージョンとして要素を複製」を実行します。これにより、過去のバージョンの要素のコピーを作成し、現バージョンでの変更内容を記述できます。

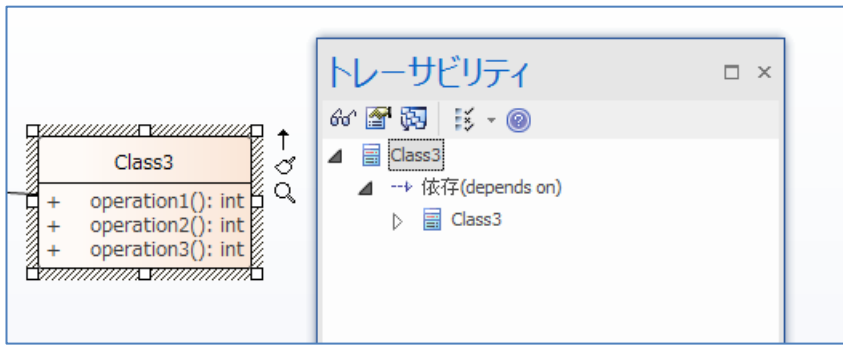


このような操作により、ダイアグラム内で新旧バージョンの要素が混在することになります。ダイアグラムのプロパティに追加された「バージョンでフィルタ」を有効にすることで、新バージョンでの変更要素のみが明示されます。



また、トレーサビリティサブウィンドウでは、新バージョンの要素から旧バージョンの要素を参照することができます。

(「モデル」リボン内の「トレーサビリティ」パネルにある「ウィンドウ」)

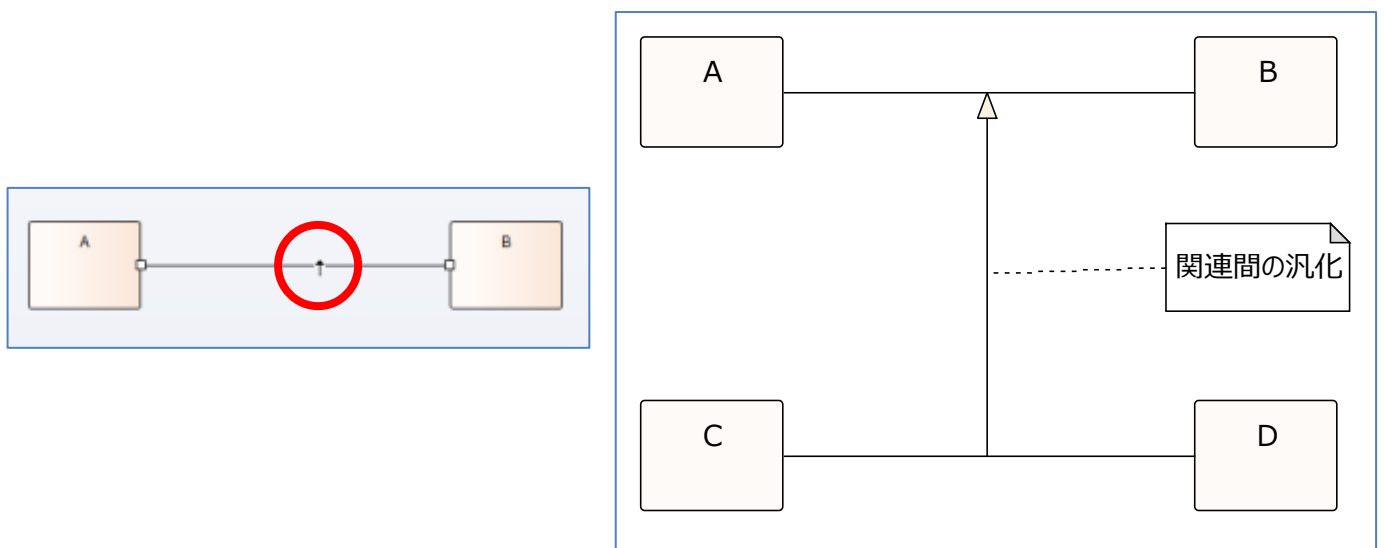


新しい要素を新バージョンのダイアグラムに配置する場合に、ユーザーオプションでのバージョンの既定値で配置されます。新バージョンを自動的に設定したい場合には、「ホーム」リボンの「オプション」パネル内にある「ユーザー」ボタンを押し、「要素」グループ内の「バージョン」の値を変更するか、テンプレートパッケージの機能を利用してください。

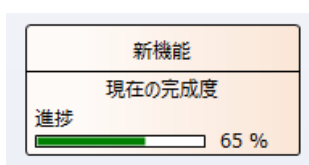
ダイアグラム内の操作・表現の強化

ダイアグラム内での操作・表現についても、さまざまな強化を行いました。

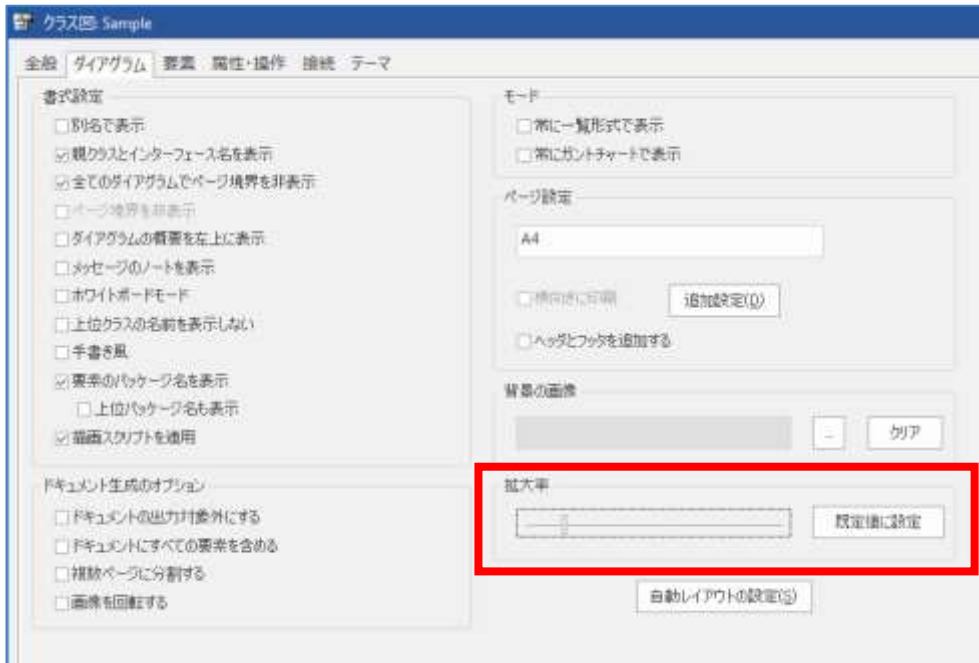
まず、接続を選択した場合にもクイックリンクのアイコンが表示され、接続からのノート要素の作成や関連間の汎化などの表現の記載が可能になりました。



また、要素のタグ付き値の種類として「プログレスバー」型を追加し、以下のように要素にプログレスバーを表示できるようになりました。



ダイアグラムの拡大率については、「既定の拡大率」という概念を追加しました。今までのバージョンとは異なり、マウスのホイールなどでの拡大・縮小の結果は保存対象とならず、図を開き直すと「既定の拡大率」で表示されます。これにより、拡大・縮小で編集扱いとなったり、拡大した内容がそのまま保存されてしまうなどの問題を回避することができます。

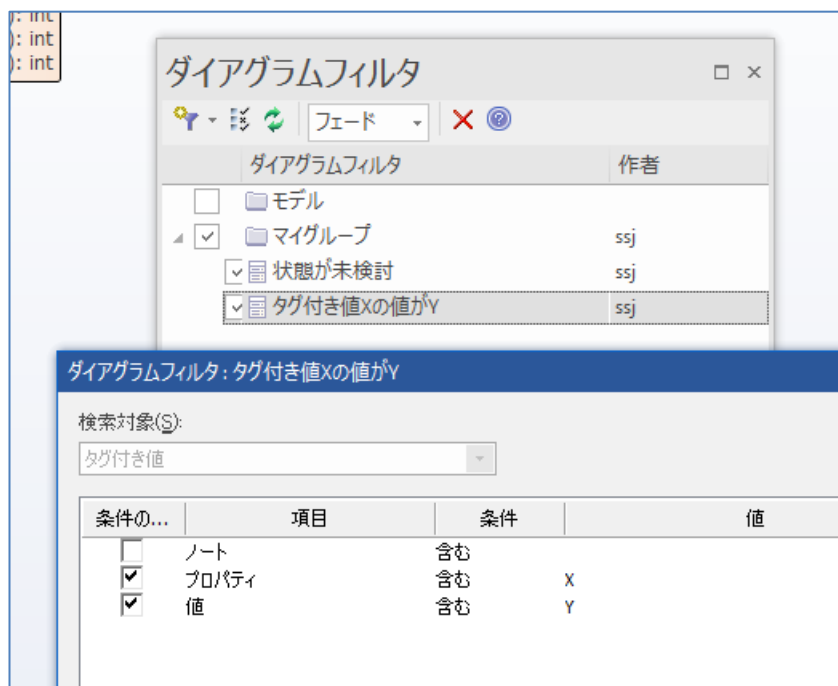


(ダイアグラムの背景でダブルクリックしてプロパティ画面を表示し、「ダイアグラム」タブ内の「拡大率」スライダを調整して「OK」ボタンを押す。あるいは、マウスホイールなどで既定として設定したい拡大率に変更後、ダイアグラムのプロパティ画面を表示し、「ダイアグラム」タブ内の「既定値に設定」ボタンを押す)

ダイアグラムフィルタの機能強化

ダイアグラムフィルタの機能が強化され、タグ付き値の値によるフィルタが可能になりました。また、複数のフィルタをグループとしてまとめ、一括で ON/OFF を実行できるようになりました。このグループに対して、フィルタの条件として AND/OR が設定できるようになり、複雑な条件のフィルタの作成が可能になりました。

(「ダイアグラム」リボン内の「ウィンドウ」パネルにある「フィルタ」)



また、このダイアグラムフィルタと同じ表示効果を、API からも呼び出すことができるようになりました。自作のアドインから、このダイアグラム内の表現効果を簡単に利用することができます。

([Diagram.FilterElements](#) で、引数に表示する要素の **ElementID** をカンマ区切りで指定)

ソースコード生成と読み込みの強化

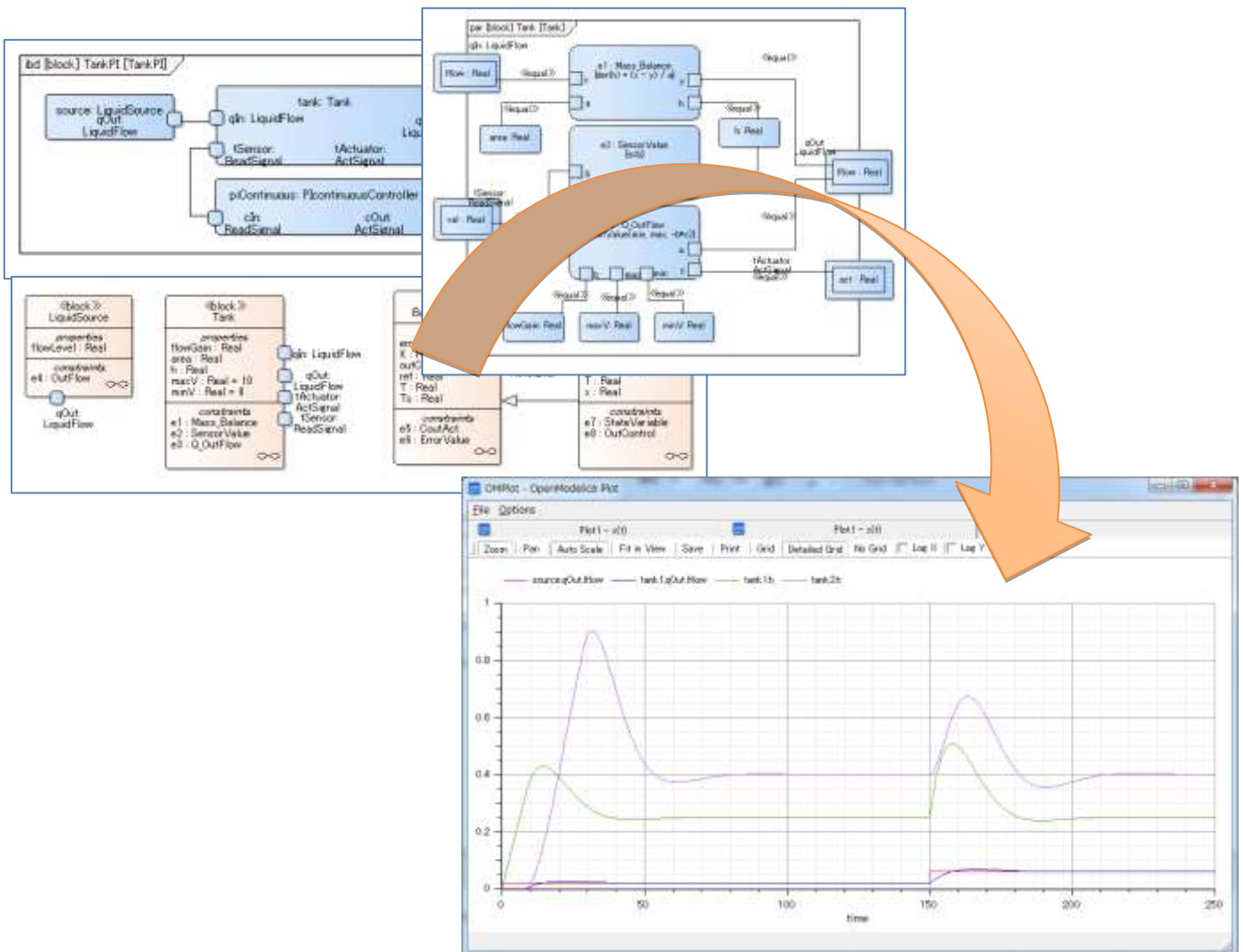
ソースコードの読み込み(クラス図の作成)とクラス要素からソースコードの生成について、以下の最新の言語で追加された記法に対応しました。

- C# 6
- Java 8
- C++ 11
- PHP 5.6
- ADA 2012

SysML に関する機能強化

SysML のパラメトリック図として作成した内容から、OpenModelica で実行できるスクリプトを自動生成して、シミュレーションを実行することができるようになりました。実行結果をグラフとして表示するところまで一括で実行できます。

(Enterprise Architect Suite システムエンジニアリング版あるいはアルティメット版で利用可能)

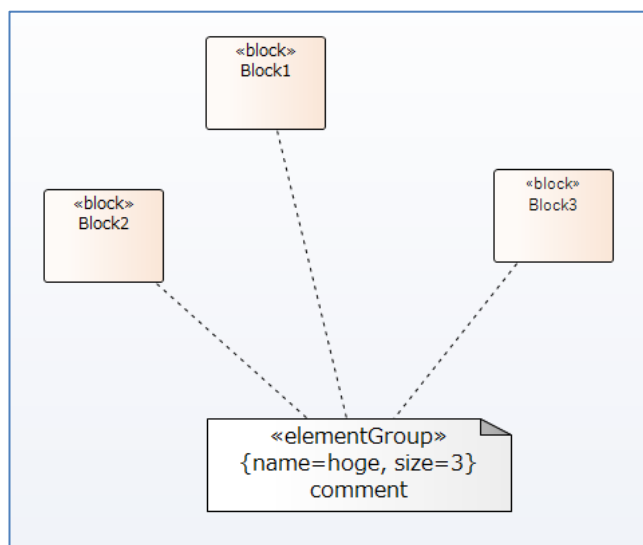


OpenModelica のシミュレーションは、インストーラに同梱されるサンプルファイル SysMLSim_Sample.EAP が参考になります。操作方法は、PDF ドキュメント「SysML パラメトリック図のシミュレーション 機能ガイド」をご覧ください。

(上記画像はサンプルファイルに含まれるモデルの一部と、その実行結果です。)

パラメトリック図および内部ブロック図では、プロパティやポート間を接続するコネクタの既定のスタイルが「直交」になりました。これらの図では垂直・水平な線を利用して記述することが多いため、効率的に図を作成できるようになりました。

また、要素グループにおける size 表記への対応やクイックリンクルールの改善・複数のポートの間隔調整機能の追加など、細かい改善も行っています。



(要素グループの size 情報は、接続されている要素数に応じて自動更新されます。ポートの間隔調整は、対象のポートを複数選択後右クリックし、「間隔を揃える」→「左右方向」あるいは「上下方向」)

レビュー支援機能 (バージョン 13.5)

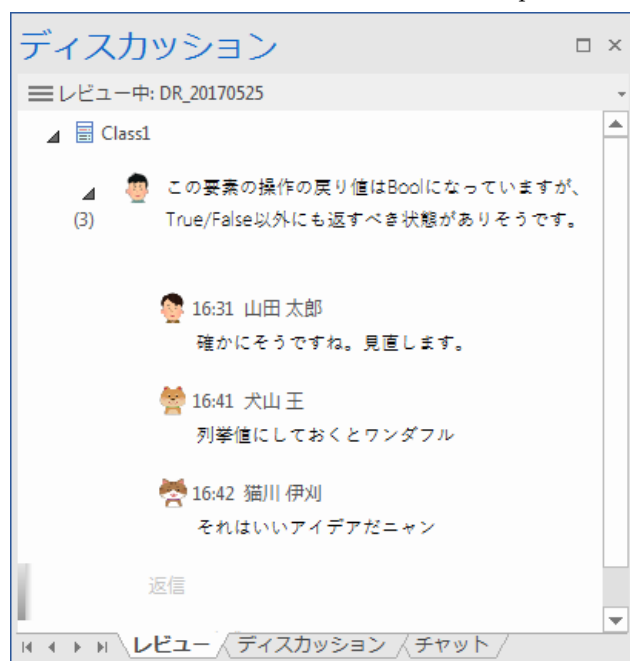
バージョン 13.5 では、以前のバージョンで利用できる「ディスカッション」機能を拡張し、モデルのレビューを支援する機能を追加しました。(コーポレート版で利用可能)

モデルのレビューを実施する場合には、まず新たに追加される「レビュー」要素を作成します。レビュー要素には子ダイアグラムがありますので、この子ダイアグラム内にレビュー対象となる要素や対称の要素が配置されているダイアグラムへのショートカット(リンク)等を配置します。

それぞれのユーザーは、レビューに「参加」することができます。レビューに参加し、レビュー対象の要素についてコメントを記入できます。記入するコメントには優先度や状態を設定可能です。

このコメント機能は、ディスカッション機能と同じです。ただし、ディスカッション機能と異なる点として、参加しているレビューに関する内容のみが表示される点が異なります。複数のレビューが存在する場合には、「参加」しているレビューに関する内容のみがディスカッションサブウィンドウに表示されます。

コメントが追加された要素の検索や、コメントの状態が「完了」ではないコメントの検索機能がありますので、設計者はレビュー中に追加されたコメントを確認し、必要に応じてディスカッションサブウィンドウで議論し、モデルの修正を効率的に進めることができます。



ナビゲーションパネル (バージョン 13.5)

ダイアグラムへのリンク(ショートカット)の機能を強化し、下の画像にあるようにアイコン画像を利用したパネルとして配置できるようになりました。パネルをダブルクリックすることで、結びついているダイアグラムに移動することができます。

(プロジェクトブラウザからダイアグラムをドラッグし、開いている別のダイアグラムにドロップすると表示される「配置形式の選択」ダイアログで「ナビゲーションアイコン」を選択)



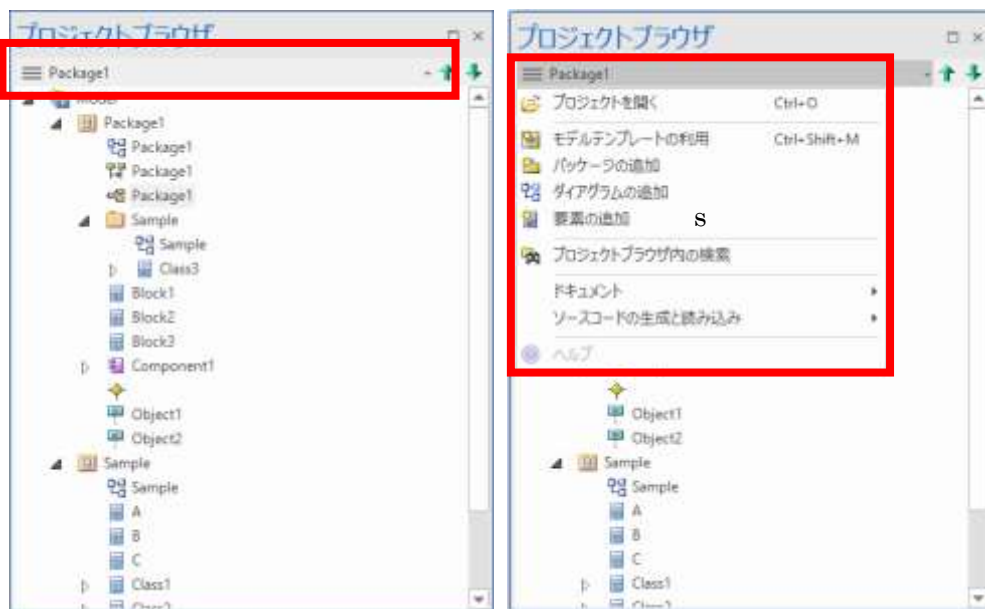
この機能は、特に WebEA (別売り製品) を利用し、スマートフォンやタブレットの Web ブラウザで Enterprise Architect のモデルを参照する場合に、タップしやすくなりますので便利です。

WebEA は、「Pro クラウドサーバ」の機能のうちの 1 つです。詳細は下記ページをご覧ください。

<http://www.sparxsystems.jp/products/other/ProCloudServer.htm>

その他の主な変更・改善

- モデルとして作成した内容を、Joomla!のデータベースに直接出力する機能を追加しました。
(「生成・出力」リボン内の「ドキュメント」パネルにある「HTML」ボタン→「Joomla!形式で出力」)
- Archetype Modeling Language (AML) および Archimate 3.0 が利用可能になりました。
- カンバン機能を強化しました。また、「既定のカンバン」の設定が可能になりました。
(コーポレート版で利用可能)
(対象のダイアグラムの背景で右クリック→「ユーザーの既定のカンバンに設定」)
- ディスカッション機能に付随するチャット機能を追加しました。(コーポレート版で利用可能)
(「ホーム」リボン内の「更新の確認」パネルにある「ディスカッション」ボタン→サブウィンドウの「チャット」タブ)
- 選択した要素の付属ドキュメントの内容を表示できる「ドキュメントサブウィンドウ」を追加しました。
(「ホーム」リボン内の「表示」パネルにある「ウィンドウ」→「ドキュメント」)
- プロジェクトブラウザ上部に配置されていたツールバーを見直し、ドロップダウン形式のメニューになりました。



- 関係マトリックスで、要素間に関係がない場合に行・列の背景色を変更する機能を追加しました。
(関係マトリックスのオプション画面の「関係が存在しない行を色付け」「関係が存在しない列を色付け」にチェック)

ターゲット +						
+ ソース	Class1	Class2	Class3	Class4	Class5	Class6
Use Case1					↑	↑
Use Case2		↑		↑		
Use Case3						

- ・ ノートの入力欄を持つ画面(ダイアログ)など、いくつかの画面のサイズを変更しました。その関係で、このバージョン 13.0 からは、必要システム構成として 1280x720 以上の解像度のディスプレイが推奨となります。
- ・ このバージョン 13.0 からは、Windows XP・Windows 2003 Server は動作保証外・サポート対象外となります。また、これにあわせて、既定のプロジェクトファイルやサンプルファイルに設定されている既定のフォントを Meiryo UI に変更いたしました。
- ・ インストーラの作成ツールを、バージョン 12.1 まで利用していたツールから変更いたしました。これにより、インストーラに関して発生していたいくつかの問題に対応できました。
- ・ ダイアグラム内に配置した画像の描画処理を改善し、特に拡大・縮小した場合の描画を改善しました。
- ・ プロジェクトごとに、必要な Enterprise Architect のバージョンや MDG テクノロジーを指定できるようになりました。これにより、想定と異なる環境でプロジェクトを利用することを防げます。
- ・ 「暗号化ドキュメント」要素を追加しました。パスワードを設定し、ドキュメントをモデル内に保持できます。

(「ドキュメント」ツールボックス内の「暗号化ドキュメント」要素をダイアグラムに配置)